

行政調査報告書「市民文教常任委員会」

平成 22 年 7 月 14 日（水）～16 日（金）

■千葉県松戸市「市民活動助成金交付制度、協働のまちづくり基金について」



松戸市では、協働のまちづくり条例を機軸に、協働事業提案制度、市民活動助成金交付制度、協働のまちづくり基金などアイデアを凝らした仕組みにより市民との協働に取り組んでいる。その取り組みの経緯や、改善を繰り返しながら運用していることなどについて、担当者の熱心な説明でよく理解できた。

「まちづくりは人づくり」といわれるが、改めて人材育成の大切さを強く感じるとともに、本市においても若き協働のリーダーを育てることが急務ではないかと感じた。

■山形県飯豊町「体力づくり推進協議会設置事業及び健康教育推進（飯豊町立第二小学校）について」

飯豊町立第二小学校では、健康・体力づくりに学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいる。「早ね早起き朝ごはんでげんきっ子」など、いくつかの特徴的な取り組みにより、早寝早起きの改善や肥満傾向児の減少などの効果が出ていた。



本市においても、生活習慣や食生活で健康状態が大きく左右されることを児童と家庭に認識してもらい、改善していく取り組みが必要だと感じた。

■東京都葛飾区「葛飾区郷土と天文の博物館について」



葛飾区のプラネタリウムは、平成 19 年に機器の更新をした際にデジタルユニバース（全宇宙の三次元地図）をいち早く導入し、注目を集めた。また、内部で音楽コンサートも開催しており、新たに導入したデジタル映像システムによって臨場感ある映像を映し出し、好評を得ている。

本市のプラネタリウムは、導入から 30 年が経過し、老朽化が進み、修繕が困難となってきた。プラネタリウム施設は、宇宙や星の学習だけでなく、コンサート、まち紹介番組、その他の学習番組にも利用可能である。今までの使われ方以外にも導入効果を勘案し、さらには近隣市との広域連携も図りながら導入効果を検討していくべきではないかと感じた。